

日 本 計 量 生 物 学 会

The Biometric Society of Japan

ニュース・レター Nó, 1

1 9 8 0 年 1 0 月

生物の現象を計量的に解析し目的に即して妥当な情報を取り出すことが計量生物学の目的である。取り出された結果はもとより、それを析出するまでの方法的成果を含むものと解釈すべきものである。いわゆる精密科学といわれるものでは計量なしには議論が成立しないので、ここにあらためてメトリックスを意識することは稀である。一方、社会・人文現象では計量すること自体むずかしく、人間の間の差もまた大きい。これをどう処理して情報を取り出すかが最も大切なところとなる。生物の現象はちょうどこの中間にある。計量をはっきり意識しなければならないこともあるし、個体差の大きいこともあるし、計量値変動、計測誤差もかなりあるのが普通である。しかし一方自然科学的意味の一様性、規則性もかなりあるわけである。こうしたところを母体に新しい統計学が誕生したことは十分首肯できる。その後の統計学の発展もこの宝庫に根ざしたところが多い。計量生物学の計量的方法そのものやその土台をなすものは、主に統計的考え方・統計的方法であるが、今日ではさらに多くの計量的方法が付け加わって計量生物学を形成しているとみてよからう。

計量生物学の包含する範囲はきわめて広く、科学の進歩により、ますます、その取扱う領域は拡大してくるし、その用いる方法論や方法もますます多岐に亘ってくる。「用いる方法」というといかにも既成の方法を適用するというように聞えるが、そういう意味ではない。新しい方法——方法と言っても数式によって表現されるハードな成果だけではなく情報をとり出すためのあらゆる方法を含むものである——を開発することも含めているのである。こうして形づくられてくる方法自体は生物学的問題処理に有効であると共にそこに躍動するデータ解析——データをいかにとりいかに解析するかの方法論・方法——の考え方や成果は他の分野にも有効に通用されることが多く、また前述のように方法一般にも拡張されることになる。また、方法に基くデータ処理ないしは方法自体も、コンピュータの高性能化に伴い、それを前提として形づくられ、パッケージ化されて行く傾向にある。初めから終りまで、生物現象を取扱うこと・それを取扱う方法を含めて一貫した形で計量生物学の守備範囲に入ってきている。私としては甚だ慶ばしいところで年来の希望であった姿が実現されつつある次第である。

計量生物学会は、これまでの既成分野の学問分類にしたがえば学際的ということが出来る。多くの専門分野の人々が集って議論をするとき、よい刺激を受けることは当然のことであるが、誤解・曲解も生ずることはしばしばある。既成学問分野のルールが異なるからである。ルールを一つのルールとして認めないで、それこそ正に正しい方法と自認しているとすれば、学際的集りは不毛のものとなる。学問発達には過去の遺産を受け継ぎ、成果をその上に次々と積み重ねて行くというプロセスがとられている。したがって、おのずと一つの考え方の型、話のもって行き方のルールが出来上っている。このルールを知っているか、知っていないかが玄人と素人の差になっている。したがって、このルールにのらないような考え方をされるとその道の玄人にはどう評価してよいか分からないということがおこる。自信の強い人は素人のやることとして全く無視してしまうが、心を開いて素直に考えれば、自己の学問のルールをもう一度見直してみる必要を感じる筈である。

学際的集りでは、ルール・のルールたる所を自覚し正直に卒直に議論を行い、自らを富ましめることが必要であり、互に啓発しあうことが重要である。こうすることによって、共通の土俵が出来、過去の学問的遺産をポテンシャルとして、直面する困難な問題を解決するための考え方、方法論、方法が開発されてくることになる。計量生物学会は、こうした場を提供し、生物現象解明のための科学が飛躍的に発展する機運を作りあげること貢献すべきである。しかし学問は人がつくるのであって学会が作るのではない。学会は人が集り、議論しあい成果を広く知らしめて、一層豊かな成果が生れ出るような雰囲気や場を作り事業を行うことにある。会員の活動と学会の運営との呼吸がぴったりと合うことが重要なことであると思う。

なお、我々の先輩が犯した誤り——つまりこれまでにない新しいものが生じたとき、学会はこれを評価することができず、既成の立場から眺め不安安全さの故に攻撃し、無視し、あるいはこれをしらずしらずのうちに抑えたということ——は絶対に避けたいものである。間、間に生ずる新しい本当にオリジナルなものを育てあげ場になるように、相携えてこの学会を盛りあげて行けば、彼我の相乗効果的裨益は実に大きいものになるであらう。

日本計量生物学会 設立趣意書 (写し)

日本計量生物学会は、生物学・医学・農林水産学・生態学・環境科学などの諸分野の研究を、計量的・数学的・統計的手法を用いて推進するとともに、そのような研究手法の普及、関連研究者相互の交流を促進し、かつ、外国の研究団体との連絡を密にすることを目的としています。

このような手法を研究する学問を、従来は生物統計学、生物測定学、バイオメトリックスなどと呼んでいましたが、最近の計量的・数学的手法のめざましい発展にかんがみ、本会は「計量生物学」と呼称することに致します。この分野の研究者はきわめて学際的で、その進歩発展は、将来の人類の生存と遺伝に重要な関係をもつとの認識から、米国や西欧では最近研究者の数も研究論文の数も急増していますが、残念ながらわが国ではまだ十分な関心をもたれていないと思われます。

国際計量生物学会 The Biometric Society は、国際連合 International Union of Biological Sciences の Biometric Section として1948年に発足して以来、2、3年おきに国際研究集会 International Biometric Conference を開催するとともに、年4回研究論文誌 Biometrics を発行してきました。現在の会員数は、米国の2,200名、英国360名、ドイツ330名、カナダ180名、フランス150名、オーストラリア140名、スイス130名、イタリア100名、日本220名などをふくめて総計約5,000名です。

この国際計量生物学会の機関誌 Biometrics の購読者によって1953年に Japanese Group が結成されましたが、これが発展して1979年からは同学会の Japanese Region となるとともに、日本国内でも独自の研究活動を行なおうとしています。

このような学際的分野の研究は、専門の異なる研究者の相互交流なしには有意義な発展をしないと考えるので、関心のある方々が奮って会員になられることをお勧めする次第です。

▲会員の特典

- (1) 年会費 5,000 円 (1981 年度) で雑誌 *Biometrics* が年 4 回職場または自宅のうち希望の場所に米国から直送されます。(この分の費用として会費のなかから 13 ドルを国際計量生物学会事務局にまとめて送っています。これを書店を通じて購入すると約 8,000 円になるはずです。) また、雑誌 *Biometrics* を必要としない方の年会費は 2,000 円です。
- (2) 日本計量生物学会総会および研究発表会に参加できます。このような研究集会の回数は今後増やす予定ですし、また地方でも開きたいと考えています。また同会誌およびニュースレターが配布されます。
- (3) 国際計量生物学会に関する情報、とくに 2～3 年に一度開かれるコンファレンスについて早期に情報が得られます。

▲ 1980 年度の理事

会長 林 知己夫 (統数研所長)

理事 井山 審也 (国立遺伝研) *太田 邦昌 (東 経 大) □奥野 忠一 (東 大 工)

工藤 昭夫 (九 大 理) 後藤 昌司 (塩野義解析センター) 鈴木 茂 (農 技 研)

△ 竹内 啓 (東 大 経) 古川 俊之 (東 大 医) 山本 俊一 (東 大 医)

銭 *会計担当 □ 庶務担当 △ 編集担当

監事 長谷川政美 (統 数 研) 堀江 正樹 (農 技 研)

▲入会申込みと会費納入方法

入会を希望される方は添附の入会申込書 (和文および英文) に記入の上、入会希望年度会費とともに下記宛にお送り下さい。ただし、会費納入はすべて銀行振込によるものとし、銀行振込書類をもって領収書に代えることに致します。

振込先「第一勧業銀行国分寺支店普通預金 1528488 バイオメトリック・ソサイエティ」

代表者 太田 邦昌

〒185 東京都国分寺市南町 1-7 東京経済大学内 (電話 0423-21-1941)

この設立趣意書は、事務局に用意してありますので、御入用の方は庶務担当理事・奥野までお申し出下さい。

東大 (03) 821-2111 (内) 6940 奥野または栗原

日 本 計 量 生 物 学 会 会 則

〔総則〕

1. 本会は日本計量生物学会 (The Biometric Society of Japan) と称する。
2. 本会の事務局は、原則として庶務理事の所属する機関におく。

〔目的及び事業〕

3. 本会は生物学・医学・農学その他の関連分野における科学的研究を計量的・数学的・統計的方法を用いて推進するとともに、その研究の普及、研究者相互の交流を促進し、かつ、外国の研究団体との連絡を図ることを目的とする。
4. 本会は前条の目的を達成するために、次の事業をおこなう。
 - (1) 研究発表会・講演会・シンポジウムの開催
 - (2) 会誌・図書および資料の刊行
 - (3) 外国の関連学会との連絡および協力
 - (4) その他前条の目的を達成するために必要な事業

〔会員〕

5. 本会の会員は次のとおりとする。
 - (1) 正 会 員……第3条にあげた研究に従事する者またはそれに関心を有する者
 - (2) 学生会員……大学の学生（大学院生をふくむ）あるいはこれに準ずる者
 - (3) 賛助会員……本会の目的に賛同し、その事業に財政的援助をする者または団体
6. 本会に正会員または学生会員として入会しようとする者は、正会員1名の紹介により、理事会の承認を受けなければならない。
7. 会費として正会員は年額 5,000 円、学生会員は 4,000 円、賛助会員は1口 10,000 円以上を毎年1月末日までに納入しなければならない。ただし、国際計量生物学会からの機関誌 Biometrics の送付を希望しない者の会員は、正会員・学生会員とも年額 2,000 円とする。
8. 会費を2年以上滞納した者は、理事会において退会したものとみなすことができる。
9. 会員はつぎの特典を受ける。
 - (1) 本会が刊行する会誌および資料の配布を受けること
 - (2) 本会の行なう事業の通知を受けこれらに参加すること
 - (3) 会則及び別に定める規則により、本会役員の選挙権および被選挙権を有すること
 - (4) 国際計量生物学会の機関誌 Biometrics を年4回受領する（ただし前記7のただし書きに該当するものは除く）

〔役員〕

10. 本会に次の役員を置く。
 - (1) 理事若干名、うち1名を会長とする
 - (2) 監事 2名
11. 理事および監事は正会員のなかから選任する。役員の選任方法については総会で定める。
会長は理事会において互選する。

12. 会長は本会の業務を総理し、理事会の議長となり、また本会を代表する。

理事は理事会を組織し、総会の権限に属する事項以外の事項を議決し、執行する。理事のなかから庶務担当・会計担当および編集担当をそれぞれ1名選任する。

監事は本会の業務および会計を監査する。

13. 本会の役員の任期は2年とし再選を妨げない。

14. 役員に欠員を生じたときは、理事会の議決により後任を補充することができる。後任者の任期は前任者の残りの期間とする。

〔会議〕

15. 本会の会議は総会と理事会とする。総会は通常総会と臨時総会とする。

総会は正会員・学生会員および賛助会員のなかの個人会員をもって組織する。

理事会は理事をもって組織する。

- 16.(1) 通常総会は毎年1回4月に会長が招集する

(2) 臨時総会は理事会または監事が必要と認めたとき、会長が招集する。また、会長は正会員の10分の1以上から会議の目的を記載した書面による請求のあったときは、これを招集しなければならない。

(3) 通常総会を招集するには少なくとも6週間以前に、会議の目的である事項、日時および場所を記載した書面をもって会員に通知しなければならない。

17. 通常総会の議長は会長とし、臨時総会の議長は出席正会員の互選によって定める。

18. 総会はこの会則で定めるもののほか、次の事項について議決する。

(1) 事業計画および収支予算についての事項

(2) 事業報告および収支決算についての事項

(3) その他本会の運営に関する重要な事項

- 19.(1) 総会は正会員現在数の5分の1以上の者が出席しなければ、その議事を開き、議決することができない。ただし、当該議事につき、あらかじめ書面をもって意思を表示した者または表決の委任者は出席者とみなす。

(2) 総会の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

20. 理事会はこの会則に定めるもののほか、次の事項について議決する。

(1) 総会に提案すべき事項

(2) 会務の執行に関する事項

(3) その他会長が必要と認めた事項

〔会則の変更および解散〕

21. 本会則の改正には総会において出席者の3分の2以上の議決を経なければならない。

〔補則〕

1. 本学会は国際計量生物学会IBSの日本支部を兼ねる。

会長、庶務理事、会計理事はそれぞれ同支部の President Secretary Treasurer を兼務する。

2. IBSのCouncil memberは本学会の理事に就任する。

3. 1980年度の会費は現行のままとし、上記7の会費は1981年より施行する予定。

(正会員4,500円、学生会員3,600円)

投稿のお知らせ

会員の皆様の最新の研究成果や研究活動状況を他の会員の方々へいち早くお知らせし、あわせて The Biometric Society 本部へ報告して海外に紹介する目的で、本学会でも会誌を定期的に発行する運びとなりました。つきましては会員の皆様からの論文投稿を受けつけたいと思います。以下の事項を充分御配慮の上、奮って投稿されますようお願いいたします。

1. 会誌の性格上、英文論文のみを受けつけます。
2. Biometrics に関する論文ならどのようなものでも受けつけますが、理論よりも応用を重視する方針です。新しい手法の提案や既存の理論の証明など、数学や統計の理論面にのみ重点があり、生物学的にみて興味ある実例を伴わない論文は掲載しない予定です。それらの論文には、他にも多くの発表の機会があると考えられるからです。
3. 逆に、手法にオリジナリティが無くとも、解析されたデータ自体やそのデータがとられた調査、解析の結果などに公けにするだけの価値があると考えられるものについては、積極的に掲載していく予定です。
4. 邦文で既に発表された論文でも、海外に紹介する価値があると考えられるものについては、その「summary」を掲載する方針です。この場合は初出雑誌を明確にし、かつできるだけコンパクトにまとめられることを希望します。
5. 論文の長さは、刷りあがり度で B5・12 ページほど（表やグラフを含む）を一応の上限といたします。原稿は A4 タイプ用紙、ダブルスペース、1 行 65 字程度、上下左右に 2.5~3 cm 程度の余白をつけて用意されるようにお願いします。活字の使い分け、式、グラフ・表の型式については Biometrics

誌に準拠いたします。表のタイプ打ち直しなどで編集上余分な手間や時間がかからぬよう御配慮下さい。

6. 原稿のあて先は

「東京大学経済学部・計量生物学会編集理事
竹内 啓」

〒113 東京都文京区本郷 7-3-1

で、審査用のものも含め、全部で 4 部 お送り下さい。

前バイオメトリック・ソサィティ会長

ロザムステッド農業試験場統計部長

J.A. Nelder 博士来日と

講演会のお知らせ

Nelder 夫妻は IFIP (International Federation of Information Processing) の総会に出席するため、現在 (9 月 30 日) 来日されております。この機会に下記の講義をして頂くように計画しています。いずれも公開ですので、御関心のある方は奮って御参加下さるようお願いいたします。

(10 月 1 日以降のもののみ)

1. 10 月 2 日 午後 3:30~5:00

堂島中央電気クラブ 240 号室

Generalized linear models
and GLIM.

2. 10 月 9 日 午後 6:00~7:30

日科技連 (東京千駄ヶ谷)

共催 日本計量生物学会

"The concept of general balance in the design of experiment."

なお、日科技連での講義のあと、有志で Nelder 夫妻をかこむ夕食会をしたいと考えております。(会費 1 人 7,000 円位) この夕食会に出席して頂ける方は 10 月 8 日までに御一報下さい。

東大(03)812-2111(内)6940

奥野 または栗原

庶務理事 奥野忠一

れた。次回は11月26日(水)午後6時

より東大・工学部6号館で開催予定。

庶務理事 奥野忠一

第1回理事会議事録

1. 日 時：1980年9月18日
18:00～20:00
2. 場 所：統計数理研究所 所長室
3. 出席者：林知己夫、井山審也、太田邦昌、
奥野忠一、鈴木 茂、竹内 啓、
山本俊一、長谷川政美
4. 議 事：
 - (1) 経過報告…さる6月23日開催の第2回
設立準備委員会の決定に基づき、役員の委
嘱などの事務が進められたことを確認した。
 - (2) 学術会議へ学協会として登録する件—会
員名簿がそろわないので、まだ登録してい
ないとの報告があった。
 - (3) ニュース・レター版1の編集について—
タブロイド版4～6頁のものをつくる。会
長挨拶、会則、設立趣意書、などとともに、
討論の広場になるような記事を入れる。
 - (4) 会誌の編集…4月総会での発表論文の原
稿を催促中で10月はじめに印刷にはいる。
 - (5) 来年度会費…会則にあるとおり、5,00
0円、2,000円とする。
 - (6) 本部会費値上げについて…井山評議員あ
てに、年間13ドルを16ドルにしてよい
かの問合せがあり、日本支部としては諒承。
これは82年度から実施予定なので、81
年度は前項(5)の通りとする。
 - (7) 会員増加運動…81年度から入会の人に
もニュース・レターを送るなどして、早急
に増加をはかる。
 - (8) その他……前会長 Nelder 博士来日
の件(別掲)、統研連選挙の件など話合わ

ようやく、ニュース・レターの第1号を発行す
ることができました。出来ばえはいかがでしょう
か? 各種研究会のお知らせや来日学者の動向な
どの記事を中心にして、今後も発行を続けていき
ますが、御意見、御要望がございましたら、編集
理事・幹事までお知らせ下さい。

編集理事 竹内 啓

編集幹事 大橋靖雄(東大・工)

高野 泰(東大・農)

福富和夫(公衆衛生院)